

# 告白3

仙波敏郎

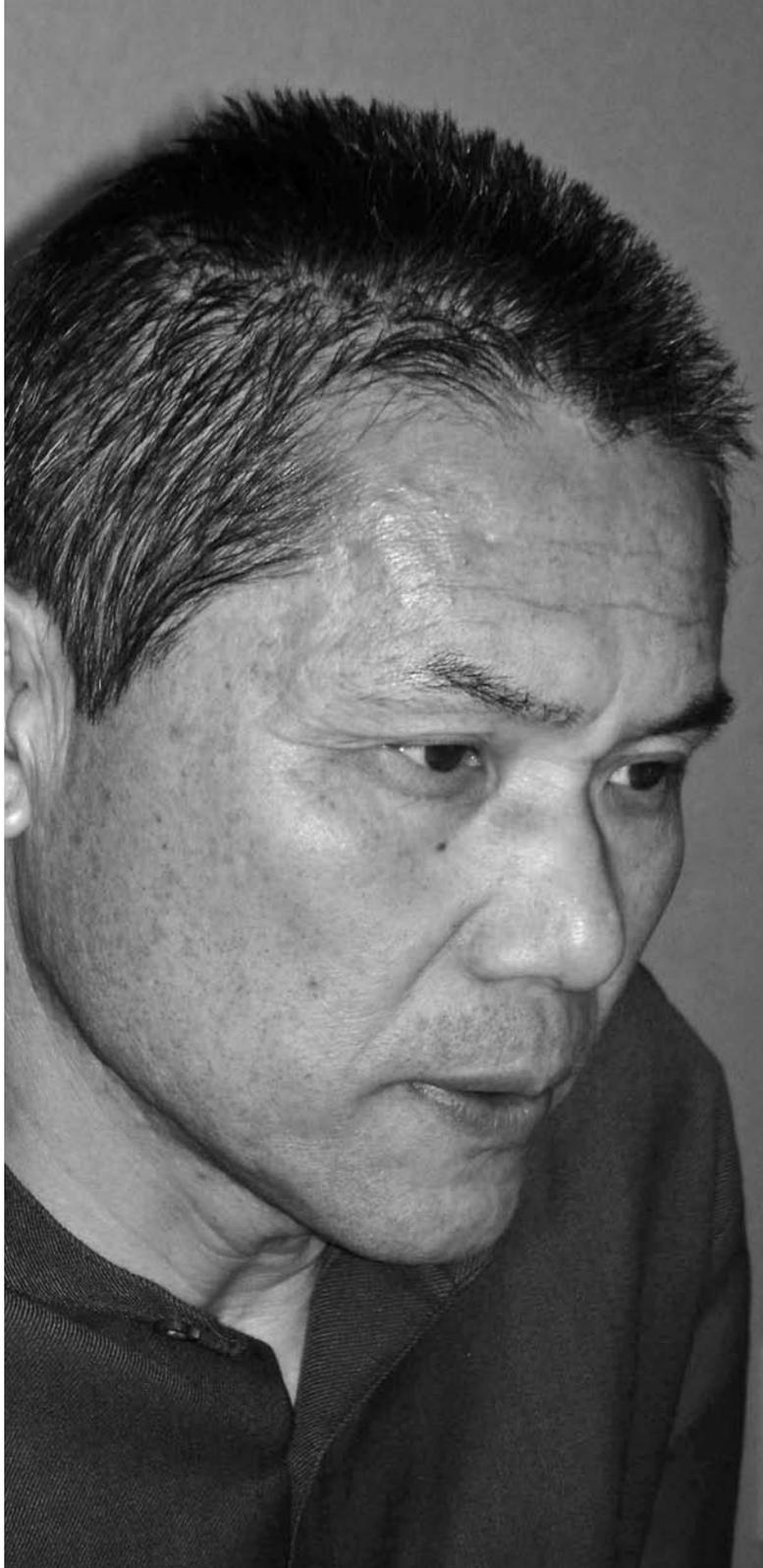
愛媛県警警巡査部長

なぜ警察官は自ら

立ち上がらないのか。

仙波敏郎（せんばとしろう） 愛媛県警 巡査部長

1949年2月14日、松山市で生まれる。1967年3月、愛媛県立松山東高校卒業。同年4月、愛媛県警巡査となる。1973年8月、24歳で巡査部長昇任試験に合格。しかし、以後、裏ガネづくりへの関与を拒み続け、2009年3月、巡査部長のまま定年を迎える予定。2005年1月20日、記者会見を開き、愛媛県警の裏ガネづくりを内部告発した。趣味はダイビング。



## 検挙数を上げるため、ホームレスと取り引きも

——現職警察官として映画『ポチの告白』をご覧になって、印象に残ったのはどのようなことですか。

**仙波** まず、タイトルの違和感を覚えました。「ポチ」はふつう、犬の名前。警察官のことを「ポチ」と呼んで、茶化しているという不快感がありましたね。警察の不正をパロディーにして、おもしろおかしく描くのかなと思いました。

——警察組織の不正を内部告発している仙波さんとしても、自分が所属している組織を悪く言われるのはイヤなんですか。

**仙波** もちろん、そういうわけではありません。映画も、実際に見てみれば、悲壮感あふれるもの。組織のために不正を働いてきたのに、最後は組織に裏切られるという、よくある警察官の末路です。ただ、僕が警察官として見てきた現場からは考えられない場面もいくつかありました。

——具体的には、どんなところですか。

**仙波** 主人公のタケハチが逮捕された際、警察からの「自殺しろ」という無言のプレッシャーを、留置場のトイレに「置き忘れた」カッターナイフで描いています。それによりタケハチは自殺を図りますが、こんなことが実際にあるとは考えづらい。



逮捕されたタケハチはトイレで自殺を図る。

マスコミ関係者の描き方も、あまりにも失礼なのは。確かに、記者クラブに所属している大手マスコミは御用記者も多いと思います。けれど、広報担当者が犬に餌をやるかのように記者を扱ったりするものなんでしょうか。

——カッターナイフについては、1998年の大和証券汚職事件の取り調べ中に起きたことがモデルになっています。マスコミの扱いも、警視庁、警察庁ではあんなものですよ。

仙波　にわかには信じられないありさまですね。都会のお巡りさんはそれほどまですでに腐っているんですか。嘆かわしいかぎり。僕は何のために頑張ってきたんだと、むなしくなります。

——反対に、映画で実態を描いていると思っただのどんなシーンですか。

仙波　交番で、お巡りさんが何もしないでポーツと突っ立っているところ（笑）。映画では、わざと自転車を立てかけておいて、自転車どろぼうを待つわなを張っていました。僕も似たようなことを見たことがあります。盗難自転車を見つけても持ち主に連絡せず、犯人が取りにくるのを待つんです。結局、張り込んでいる間に自転車ごと見失って、持ち主に返せないことも多々あります。

ホームレスにうどんを食わせてやり、他人の自転車を持ってこさせて自転車盗検挙1件としたこともあったほどです。

〔大和証券汚職事件〕

1998年1月14日、本埜孝佳・警視庁警部が大和証券へ捜査情報を漏えいする見返りに約400万円相当の賄賂を受け取ったとして逮捕された。1月17日、本埜容疑者は警視庁本部で取り調べ中、トイレへ行き、カッターナイフで首や手首を切り、自殺を図った。全治2週間。